

## I 「研究主題」 「長期的視野に立った社会的自立を目指すKSRの在り方」

～「君のことを気にかけ続けているよ」というメッセージとしてのKSR～

## II 「研究の具体」

## 1. 現状と課題

- 養育環境の複雑化と各関係機関との連携の必要性
- 思春期の問題行動の多様化
- 発達障害の二次障害・愛着障害との混在
- 不安障害・対人恐怖症・気分障害等

## 2. 研究仮説

- 早期からのアセスメントに基づく個に応じた対応をし、小中連携して適切な対応をしていくことにより、すべての生徒が長期的視野に立った社会的自立を目指すことができるのではないかと。
- 空き教室を利用して、教室とは異なる雰囲気のある校内サポートルームを開設することを通して、緊急避難や休養を求める不登校傾向の児童生徒にとっての居場所や個別最適な学習機会を確保し、多様で適切な自らの学びの選択肢を増やすことにつなげる。
  - ・ 教室よりもリラックスでき、安心・安全度が高い部屋
  - ・ 何らかの心理的な原因で教室に入れにくい不登校傾向の児童生徒にとっての一時避難場所
  - ・ 教室復帰を目指す不登校児童生徒の学校に馴染むリハーサル場
  - ・ 個別最適な学習環境を実現するためのクラスルーム
  - ・ 児童生徒の選択が尊重される場

## III 研究の検証及び改善の手立て

## 1. 正確なアセスメントによる適切な対応

- 小中連携協議会と校内研修を兼ねた事例検討会でスーパーバイズを得る。
- 専門機関・関係機関・専門家との連携
- 各生徒の状態を見てSCや医療と連携し、それをもとに対応について生徒指導委員会・不登校対策委員会で諮る。

## 2. 登校しやすい環境にするために・・・

## (1) 登下校の同線の工夫

## (2) 全職員への回覧・共通理解

- 関係機関との連携した対応を記載した支援カードの作成と回覧
- 登校しやすいKSRのための工夫
  - \* 対人恐怖・対人緊張の生徒が多いと思われるので、低刺激で肯定的なあたたかい、ねぎらいの言葉を心がける。
  - \* 活動内容は、本人興味を持てる軽作業（色紙・ジェンガ・オセロなどのゲーム・漢字プリント等）1時間程度（保護者送迎等の場合によってはもう少し短時間で）から始める。
  - \* 「先生は私のペースを守ってくれる」という安心感とラポールの形成
  - \* 無理のない目標を決めて、自分の口から言えるようにしていく。
  - \* KSRの利用の条件としてSCと本人・保護者の面接を必須とする。

## IV 成果と課題

**成果**

- 小中連携事例検討会等の機会を生かして、教職員全体の生徒の理解を深めることで、改善しつつある生徒が増えている。（カウンセリングで、「KSRが設置されて感謝している。登校できる日が激増した」と中3女子）
- 専門機関やスクールカウンセラーと連携し「支援カード」を作成して、共通理解を図ることで、全職員が生徒理解を深めて対応しようという雰囲気ができてきた。
- 一人ひとりの実態に合わせて、適切な支援ができつつあり、健康度が改善し学力も徐々についてきている生徒もでてきた。

**課題**

- 専門家の見立てによるアセスメントが十分でなく、早期の適切なアセスメントの必要性
- 教職員の多忙感や疲弊により、効果的な場となりにくい。また、専門的な知識を持った人的充実が望まれる。
- 家庭に対するサポートの困難さと効果的なアプローチの方法について